

## ■ ジャパンダートクラシック (JpnI) アラカルト (過去全 27 回の分析)

※第 1 回 (平成 11 年) から第 25 回 (令和 5 年) までは「ジャパンダートダービー」の名称で実施

※第 1 回 (平成 11 年) から第 25 回 (令和 5 年) までは 7 月上旬～中旬に実施

※記録は令和 8 年 9 月 23 日時点

### ■ 1 番人気馬はそれなりに堅実だが……

単勝 1 番人気馬は 12 勝、2 着 4 回、3 着 3 回で、3 着内率が 70.4%、単勝 2 番人気馬は 4 勝、2 着 4 回、3 着 3 回で、3 着内率が 40.7%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 63.0%となっている。単勝 1 番人気馬や単勝 3 番人気馬の成績はまずまずだが、単勝 2 番人気馬の好走率がやや低い点に注意するべきかもしれない。

### ■ 前評判の高い馬が上位を占めた例も少なくない

過去 27 回のうち 19 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 10 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

### ■ 牝馬は優勝例なし、外国産馬は 2 勝

過去 27 回の優勝馬 27 頭はいずれも牡馬である。牝馬は第 6 回 (平成 16 年) でアクイレジアが 2 着となったものの、まだ優勝例はない。なお、外国産馬は第 6 回 (平成 16 年) のカフェオリムパス、第 11 回 (平成 21 年) のテストマッタと、これまでに 2 頭が優勝を果たしている。

### ■ 3 着以内馬のうち約 3 割は地方所属馬

地方所属馬は 7 勝、2 着 6 回、3 着 11 回、JRA 所属馬は 20 勝、2 着 21 回、3 着 16 回となっている。過去 27 回の 3 着内馬 81 頭に対する割合で示すと、地方所属馬は 29.6%、JRA 所属馬は 70.4%だ。

## ■ミックファイアほか 3 頭が“無敗”のまま戴冠

過去 27 回の優勝馬 27 頭中、出走時点で無敗だった馬は、第 3 回（平成 13 年）のトーシンブリザード（出走時点で 7 戦 7 勝）、第 21 回（令和元年）のクリソベリル（同 3 戦 3 勝）、第 25 回（令和 5 年）のミックファイア（同 5 戦 5 勝）と、これまでに 3 頭いる。なお、ダートのレースに限ると出走時点で無敗だった馬は、前出のトーシンブリザード（ダートのレースに限っても出走時点で 7 戦 7 勝）、クリソベリル（同 3 戦 3 勝）、ミックファイア（同 5 戦 5 勝）に加え、第 4 回（平成 14 年）のゴールドアリュール（ダートのレースに限ると出走時点で 2 戦 2 勝）、第 7 回（平成 17 年）のカネヒキリ（同 4 戦 4 勝）、第 10 回（平成 20 年）のサクセスブロッケン（同 4 戦 4 勝）、第 11 回（平成 21 年）のテストマッタ（同 2 戦 2 勝）、第 14 回（平成 24 年）のハタノヴァンクール（同 4 戦 4 勝）と、計 8 頭いる。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「4」

騎手別の勝利数を見ると、4 勝の武豊騎手が単独トップ。戸崎圭太騎手が 3 勝で単独 2 位、内田博幸騎手、坂井瑠星騎手、横山典弘騎手が 2 勝で 3 位タイとなっている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3 勝の音無秀孝調教師、矢作芳人調教師がトップタイ。川島正行調教師、佐藤賢二調教師、角居勝彦調教師が 2 勝で 3 位タイとなっている。

## ■外寄りの枠番がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6 枠（8 勝）が単独トップ。7 枠（5 勝）が単独 2 位、3 枠（4 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、11 番（4 勝）が単独トップ。9 番と 12 番（各 3 勝）が 2 位タイ、1 番、3 番、4 番、5 番、6 番、7 番、10 番、14 番（各 2 勝）が 4 位タイである。ちなみに、未勝利の馬番は 2 番、13 番、15 番、16 番だ。

<伊吹雅也>